

長野県自然保護研究所年報

第7号
(2002年度)

長野県自然保護研究所

はじめに

－ NACRI 2002 年度の研究と活動－

長野県自然保護研究所総括研究員
糸賀黎

長野県自然保護研究所（NACRI）は、今年度、次の2つのプロジェクト研究を重点的に実施いたしました。まず、「信州の里山の特性把握と環境保全のための総合研究」では、この2年間、研究所のある浅川地域の里山を対象として調べ、研究成果を公表いたしました。自然環境の基盤条件としての地形地質に着目すると、浅川地域は低地（市街地）、山間地（里山）、高原地（里山上部）、火山地（奥山）の4つに地域区分され、この区分に従って、土地利用や定住、暮らしが成立し、歴史的に変遷しながら、独自の里山文化が展開されてきたことがわかりました。このような地域区分に対応して生き物の生態や生物多様性が特徴づけられる一面も認められます。2次林や人工林におけるフロラは、奥山や高山帯等に比べてより豊かで、種の豊かさ（種多様性）がみられます。植生も多様な土地利用を反映して、モザイク状に分布しています。このことが里山の自然の豊かさをもたらしています。例えば維管束植物絶滅危惧種も47種認められました。クマが人里に出没するようになったことも問題です。オリンピックを契機に観光開発や急激な宅地開発が進み、それに対応する自然との共生を指向する適正な土地利用のあり方も課題です。浅川を対象とする脱ダム問題に対応する流域管理、特に森林の公益的機能を重視した整備や管理も重要な課題でしょう。今年度から新たな研究フィールドとして、中条村虫倉山を中心とする一帯の地域を加え、特に過疎化が進む中山間地域における里山の問題を研究しています。

もう一つの重点的なプロジェクト研究として「野生動物の生態および人との共存に関する調査研究」を去年度から3ヵ年で研究中です。カモシカ・シカ・イノシシ・クマ・サルについて、最近多発する農林業被害に対応し、より効果的な保護管理のあり方を考え、それらの適正な個体群維持と被害防除を両立させようとする研究です。県の特定鳥獣保護管理計画と連携しながら研究を進めています。また「長野県版レッドデータブック作成事業」では、脊椎動物と無脊椎動物のレッドリストとして500近い種を選定し公表しました。

地球環境時代をむかえ、長野県自然保護研究所も、循環型社会を見据えながら、地球温暖化、流域管理、生物多様性のモニタリング、循環型社会のあり方等新たに挑戦すべき課題に直面しようとしています。県民皆様方の自然保護や環境に関するシンクタンクとして、より一層発展させて行きたいと念願しております。

長野県自然保護研究所年報
第7号(2002年度)
目次

設置趣旨 1
沿革 2
機能 3
活動報告	
1) 調査研究 4
2) 情報管理 8
3) 学習交流 10
研究業績	
1) 学会発表等 21
2) 掲載論文等 23
3) その他 23
施設とその概要 25
1) 標本室 26
施設の利用状況 27
予算概要 28
主要研究備品 28
図書 29
組織及び職員名簿 30

設置趣旨

近年、オゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨等地球規模で広がる環境汚染や自然破壊がもはや見過ごすことのできない問題として提起されている。また豊かな自然に恵まれた本県でも、自然環境に対する県民の関心が高まり、身の回りの環境と生活のあり方、自然環境の保全と地域開発との調和のあり方があらためて問われている。

このような情勢の中で、県民一人ひとりが地球的な視野にたって考え、行動していくことが必要となっている。とりわけ、本県の豊かで美しい自然は県民のみならず、国民全体のかげがえのない財産であり、調和ある利用を図りながら、これを保護・保全し、後世に伝えることは県民の重要な責務である。

一方、自然環境は、動物や植物等の生物どうしや、生物と地形、地質等の無機的環境とのかかわりにおいて、それぞれが調和・均衡することにより、はじめて維持されるものである。こうした自然の多様性を十分理解し、人間も自然の一員であるという認識にたって、自然と共生する社会づくりが必要である。

そのため、自然を人間とのかかわりにおいてとらえ、そのなかで自然を構成する諸要素およびそれらの相互関係について総合的に調査し研究することは、極めて重要な取り組みのひとつであり、またこれを通して本県の自然の保護・保全に貢献することが期待される。

そこで各種試験研究機関等と有機的な連携を図りながら、自然の保護・保全に関するさまざまな分野からの総合的な調査研究を行うとともに、県民一人一人が自ら学習し、交流することのできる場として「長野県自然保護研究所」を設置する。

沿革

- 1992. 7. 21 第一回自然保護研究所(仮称)設置懇談会
- 1992. 9. 30 第二回自然保護研究所(仮称)設置懇談会
- 1992. 10. 30 第三回自然保護研究所(仮称)設置懇談会
- 1993. 12. 4 知事へ「中間とりまとめ」を提出
- 1993. 1. 20 第四回自然保護研究所(仮称)設置懇談会
- 1993. 2. 23 「長野県自然保護研究所(仮称)設置基本構想」を知事に提出
- 1993. 6. 10 建設場所を長野市飯綱高原に決定
- 1994. 4. 1 自然保護研究所建設担当2名を配置
- 1994. 10. 24 第一回自然保護研究所研究準備委員会開催
- 1994. 11. 2 第二回自然保護研究所研究準備委員会
- 1995. 1. 17 第三回自然保護研究所研究準備委員会
- 1995. 3. 23 第四回自然保護研究所研究準備委員会
- 1995. 4. 1 建設担当5名を配置
- 1995. 8. 4 起工式
- 1996. 4. 1 自然保護研究所、県立長野図書館仮事務所にて発足
- 1996. 6. 8 開設記念植樹(自然保護研究所敷地内等)
- 1996. 6. 9 開設記念国際シンポジウム(県民文化会館)
- 1996. 9. 30 開所式
- 1997. 4. 1 新たに研究員2名を配置
- 2001. 3. 31 第1期プロジェクト研究成果を出版(5プロジェクト)
- 2002. 3. 31 第1期プロジェクト研究成果を出版(1プロジェクト)
- 2003. 3. 31 研究プロジェクト成果報告1(里山としての長野市浅川地域)を出版

機能

調査研究機能、情報管理機能、学習交流機能、標本管理機能の四つの機能を設ける。またこれらの機能を十分に発揮させるために各種試験研究機関及び大学等ならびに全国や県内の一般研究者等とのネットワーク化を図る。

- (1) 調査研究機能：各種試験研究機関及び大学等における基礎的な調査研究成果の活用を図りつつ、行政課題に対応した自然の保護・保全に関する相互的な調査研究を行う。

生態系を基本とした野生動植物、地形、地質、景観及び気象・水文等の自然環境の基礎的及び応用的な調査研究を行う。

自然の保護・保全に関する歴史、その理念、教育、法制度等の人文・社会科学的研究を行う。

より実践的なテーマに対し多分野から総合的に進める研究としてプロジェクト研究、そのための各分野の高いレベルの調査研究活動を維持する研究として基礎研究を行う。

- (2) 情報管理機能：本県の暖温帯から高山帯までの広大な自然は他県にない特性を有しており、これらの自然環境に関する情報等を収集し、高度な情報技術を活用した管理を行い、広く県民等へ提供する。

野生動植物、地形、地質、景観及び水文等の自然環境に関する文献、調査研究資料等を収集・整理し保存・管理する。

収集、管理された情報については、広く県民等へ提供する。

- (3) 学習交流機能：自然への理解を得るために、県民一人ひとりが自ら学習・交流し、また自然保護活動を行うボランティアやNPO等が活動・交流することのできる拠点とする。

県民が自然への理解を得るための各種公開講座や講習会およびシンポジウム等を開催する。

県民の自然保護に関する疑問や質問に的確に対応できる相談室の開設等を行う。

自然保護ボランティアを対象とした各種学習会や交流会等を開催する。

自然保護センター等と連携をとり、自然保護ボランティアの協力を求め、県民等に対する自然保護の普及啓発を行う。

- (4) 標本管理機能：調査研究で収集した標本や寄贈された標本の管理を行う。

活動報告

調査研究

信州の里山の特性把握と環境保全のための総合研究

研究担当 富樫 均、大塚孝一、須賀 丈、浜田 崇、岸元良輔、陸 斉、堀田昌伸、北野 聡、前河正昭、畑中健一郎、尾関雅章、浦山佳恵、藤原陸夫、松田松二、糸賀 黎、宮脇 昭

研究期間 平成 13 年度～平成 17 年度（2001～2006 年度）

研究概要

本研究は、長野県内の里山地域の現状について、自然環境と社会環境を多面的に調査し、里山地域の「主体-環境系」の見取り図をつくとともに、環境保全策策定に役立つ情報の整備と提供を行うものである。

研究対象としては昨年度コアエリアとして設定した浅川流域に加え、今年度からさらに周辺の虫倉山地域や鳥居川地域が対象となった。平成 14 年度（2002 年度）は、プロジェクト開始2年目にあたり、浅川地域についての補足調査と中条村での予備的調査を行った。また9月以降には、信州の里山の遊び文化に関する全県的調査を開始し、中条村、天龍村、豊科町において聞き取り調査を実施した。

浅川地域の研究成果については、エコフィエスタにおいて一般市民向けに発表するとともに、「里山としての長野市浅川地域」として、研究成果報告書を作成した。

野生動物の生態および人との共存のあり方に関する調査研究

研究担当 岸元良輔・前河正昭・浜田 崇・浦山佳恵・陸 斉

研究期間 平成 13～15 年度（2001～2003 年度）

研究概要

最近長野県下で、カモシカ・シカ・イノシシ・クマ・サルが人里にまで分布域を広げて、農林業などに多大な被害を与えるようになった。そこで、本研究ではこれら5種の保護管理を進めるための基礎資料を収集するとともに、より効果的な保護管理の方法を考案するための研究を行い、これらの個体群維持と被害防除を両立させることを目標とする。とくに、特定鳥獣保護管理計画が林務部森林保全課によりカモシカ・シカ・クマ（サルは来年度）について策定・実施されているので、連携しながら調査研究を進めている。今回のプロジェクト研究では、特定鳥獣保護管理計画の実施体制の中で自然保護研究所がどのような役割を果たすべきかその位置づけを考え、平成 16 年度以降の野生動物に関わるプロジェクト研究につなげる予定である。

カモシカおよびシカ特定鳥獣保護管理計画に関わる基礎調査（岸元良輔）

特定鳥獣保護管理計画に関わるモニタリングの一環として、以下のような基礎調査を行った。

- ・平成 13 年度に捕獲されたカモシカのうち 64 個体について胃内容物分析を行い、植林木に被害を与えている個体が捕獲されているかどうかを調べた。

・平成13年度および14年度に捕獲されたシカのうち158個体について、採取された顎骨・臼歯により年齢査定を行った。

多雪地におけるイノシシの環境利用に関する調査研究(浦山佳恵)

飯綱高原周辺では、2年前からニホンイノシシが生息するようになった。その要因を検討するため、今年度よりラジオテレメトリー法を用いたイノシシの定位により、イノシシの環境別利用頻度やその季節変化を明らかにする研究をすすめている。今年度は発信機を装着する個体の捕獲、ラジオテレメトリー法を用いた定位の測定誤差の調査を行った。イノシシの捕獲にはまだ成功しておらず、来年度も継続する予定である。

ツキノワグマの生態と生息環境に関する基礎調査(岸元良輔・前河正昭)

近年、自然保護研究所が位置する飯綱高原周辺において、ツキノワグマが人里に下りて農業被害を及ぼすようになった。その原因を知るため、ツキノワグマの行動圏の現状や既存資料により生息環境の変化を分析している。また、その結果をふまえて対策を検討している。

野生動物の分布変化と積雪との関係(浜田 崇・岸元良輔・前河正昭)

近年、シカやイノシシの分布が県内で北上しているが、その要因のひとつとして、積雪深の変化が指摘されている。そこで、県内における積雪の時空間的な変動を把握するため、長野県内各地の積雪および降雪に関するデータから、積雪深分布の経年変化を調べ、野生動物の分布との関係を分析している。

野生動物との共存のための環境学習(陸 斉)

野生動物による農林業被害を防除するためには、実際に農林業に携わる現場の方々や行政の担当者が、加害動物の生態的な特性とそれに応じた効果的な防除方法を、地域特性に応じて考えて実施する必要がある。そのため、地域主体の環境学習を進めることが必要であり、そのためのNPOとして「信州野生生物保全センター」が立ち上げられた。この機関との連携により、効果的な保護管理のために地域に必要な情報や活動がどのようなものか、実践にもとづいて調査している。

長野県版レッドデータブックの作成

研究担当 藤原陸夫・大塚孝一・尾関雅章・岸元良輔・堀田昌伸・北野 聡・須賀 丈

研究期間 平成10～15年度(1998～2003年度)

研究概要

長野県内で絶滅の危険のある野生動植物の現状を調査し、絶滅の危険度を評価して、その保全をはかるための基礎資料として提供することを目的に、レッドデータブックの作成をおこなっている。平成15年度末に脊椎動物編・無脊椎動物編を刊行する予定で作業をすすめており、それに先だって平成15年3月にこれらの分類群のレッドリストを公表した。また平成14年3月に維管束植物編のレッドデータブックを刊行済みである。

この作業は長野県版レッドデータブック作成委員会および長野県生物多様性研究会と共同でおこなっており、各分野の専門部会でそれぞれ毎年数回の会議を開催している。

当研究所は、これらの委員会・研究会と共同して全体の企画・調整、データの収集・集計・解析、絶滅リスクの評価、レッドリストおよびレッドデータブックの編集作業などをおこなった。

森の更新に果たす動物の役割

研究担当 堀田昌伸・岸元良輔

研究期間 平成 13 ~ 17 年度 (2001-2005 年度)

研究概要

ブナ林は過去の大規模な伐採により、長野県内でもその分布は局所的になっている。ブナの種子(堅果)は鳥やネズミ類などの動物により散布される。そのため、ブナ林の分布拡大には、それらの動物(特に、鳥類)が大いに貢献していると言われている。そこで、ブナ林が自然条件下で今後どのように変わっていくかについて、動物と植物との相互関係、特に種子分散を通して考える。14年度は、下高井郡木島平村カヤの平、飯山市真宗寺、飯山市柄山、更級郡大岡村聖樋知神社、小県郡真田町菅平でシートトラップを設置し、種子生産量を調査した。これらの調査地のうち、カヤの平と飯山市真宗寺にブナの幼樹や稚樹の分布を調査するためのコドラートを設置した。

高山帯における植生の荒廃と再生に関する調査研究

研究担当 尾関雅章

研究期間 平成 13 ~ 15 年度 (2001 ~ 2003 年度)

研究概要

高山帯は長野県の自然環境を特徴づける重要な地域である。しかし、近年の登山者の増加や高標高に及び開発にともない、登山道や高山帯を通過する車道周辺部における高山植生の荒廃が指摘されており、これら荒廃地の植生の再生や植生復元対策に関する関心も高い。そこで、この研究では、高山植生の保全に資することを目的として、中部山岳高山帯の登山道周辺等で生じている高山植生の荒廃について、その現状を把握するとともに、荒廃後の植生の再生や復元手法に関する基礎的な調査研究を行う。

今年度は、飛騨山脈における登山道周辺の高山植生荒廃状況及び高山植生復元の経過に関する事例収集を行ったほか、飛騨山脈乗鞍岳および木曾山脈駒ヶ岳において、登山道・車道周辺の植生変化および植生回復工後の植生再生に関する現地調査を行った。乗鞍岳では、車道際のハイマツ林縁部が裸地化した区間で、裸地部におけるハイマツ実生の分布状況を把握したほか、植生の再生に影響すると考えられる残雪の消雪過程を計測した。駒ヶ岳では、平成 13 年度に施工された植生回復工施工区と周辺域の植生調査を行った。

また、今年度は高山植生の荒廃や再生にかかる基礎的な生態学的特性について把握するため、リモートセンシング技術やGISを用いた高山植生分布と環境要因との相互関連に関する研究に着手した。リモートセンシング技術やGISによる研究は、県内の高山植生の分布特性に関する定量的な把握・地図化に寄与するとともに、今後の高山植生のモニタリング手法の可能性の検討に資するものである。なお、リモートセンシ

ング技術を用いた高山植生の解析には、飛騨山脈乗鞍岳の高山帯を用い、ハイマツ林分布域の抽出・分布特性の解析をすすめた。

冬季オリンピック関連事業の自然環境への影響と対応に関するモニタリング

研究担当 須賀 丈・尾関雅章・浜田 崇・岸元良輔

研究期間 平成 13 ~ 17 年度 (2001 ~ 2005 年度)

研究概要

長野冬季オリンピックの準備段階で白馬村にあるアルペン滑降競技会場の造成地の森林が伐採された際、ギフチョウの食草ミヤマアオイが隣接する残置森林に移植された。その後、森林の下層植生の繁茂がギフチョウの産卵を阻害している可能性が指摘され、その刈り取りとその後の産卵数の変化などに関するモニタリングがおこなわれてきた。本プロジェクトではこのモニタリングをさらに継続しておこなっている。

今年度は、産卵シーズンのミヤマアオイの葉数とギフチョウの産卵数の調査を例年通りおこなったほか、林内地上 20 cm 高でギフチョウの産卵期間における積算日射量の測定を行った。また、昨年の開空度の測定結果とあわせて、ギフチョウの産卵場所と光環境に関する分析を行った。それらの結果、ギフチョウの卵数は林縁ほど多く、林内に入るにしたがい減少する傾向が確認された。また、刈り取り処理をした区画ほど林縁付近での卵数が多く、対照区では林縁と林内とで卵数の差はあまりみられなかった。こうした卵数と林縁からの距離との関係は、開空度と林縁からの距離の関係に類似していることから、ギフチョウは林床が明るい林縁や刈り取り処理区画において多く産卵をしていることが推察された。

フォッサマグナ地域と非フォッサマグナ地域との地形・地質比較研究 (その 2)

研究担当 富樫 均

研究期間 平成 13 年度 ~ 平成 17 年度 (2002 ~ 2006 年度)

研究概要

長野県は糸魚川・静岡構造線を境に東と西で地形・地質が大きく異なっている。県内の自然環境や風土特性を総合的に把握してゆくための基礎研究として、東のフォッサマグナ地域と西の非フォッサマグナ地域との地形や地質の基本的な違いやそれぞれの構造発達の特徴を調査解析するものである。今年度は主に地質構造発達に関する文献の収集をおこなった。

情報管理

1) 他研究所・大学・環境 NGO 等からの情報収集

研究所では自然や自然保護に関わるさまざまな情報を収集している。国や県の研究機関・大学等が発行している紀要・研究報告書、行政資料、県内外の自然保護に関わる NGO が発行しているニュースレターなどを中心に、2002 年度は約 600 点の資料を収集した。パソコンによる資料検索システムへ登録するとともに、収集した資料を来所者に公開するために、書棚をエントランスホールに設置している。

2) パソコン等情報システムの管理

所内外の自然保護にかかわる様々な情報・資料を収集し、それらを調査研究面で効率的に活用するほか、県民への情報提供手段として利用するため、情報管理システムを構築している。所内に設置されたインターネットサーバーによって、研究所内 LAN から学術情報ネットワーク (SINET) にアクセスすることが可能である。また、所内インターネットサーバー上で公開しているホームページにより、研究所の諸活動の広報を行っている。

3) 書籍管理

研究所で収蔵している書籍類を一般の来所者や外部の研究者が利用しやすくするためのシステムの整備を継続して行い、書庫内の配置の修正やパソコンでの書籍検索システムの構築などについて作業をすすめた。また、所外への貸出にも対応している。

4) 紀要の発行

自然保護に関連する研究成果を公表する場として、研究所紀要第 6 巻を発行した。

長野県自然保護研究所紀要 第6巻 目次

研究ノート

「千曲川中流域の河辺植生 現状と保全」 藤原陸夫・中村恭子・横澤邦子

「長野県北部鍋倉山におけるナベクラザゼンソウの生育環境」 大塚孝一

「野ネズミによるザゼンソウ属3種の果実及び花序の捕食」 大塚孝一・北野 聡

「長野県北部千曲川支流の浅川の魚類相」 北野 聡・大塚孝一・富樫 均・浦山佳恵・畑中
健一郎

資料

「長野市飯縄山麓におけるラジオテレメトリー法の定位距離と方向の誤差」 浦山佳恵・尾関
雅章

「長野市飯綱高原のカラマツ人工林の森林構造」 尾関雅章・大塚孝一・浜田 崇

学習交流

1) エコフィエスタ 2002

自然保護研究所のこれまでの活動を県民に紹介するとともに、自然保護・環境保全に取り組む県民のみなさんの日頃の活動について発表・交流していただく場として、「エコフィエスタ 2002」を開催した。

今年度は、県内で環境保全に取り組むNPO / NGOの展示発表、研究所からの研究発表、特別シンポジウム「これからの浅川地域を考える」をおこなった。NPO / NGOの展示発表では、14団体にご参加いただいた。研究所からの研究発表では、「野生動物の生態および人との共存に関する調査研究」と「長野県の土地利用変化と自然環境との関連に関する研究」から話題を提供し、また他の研究成果についての展示発表もあわせておこなった。特別シンポジウムでは、ダム問題をきっかけに関心を集めている浅川地域について研究所の研究成果を発表するとともに、浅川近辺で活動されている方々をゲストに迎え、当地域の将来像について話し合う場の提供をおこなった。当日は約 100 名の来所があった。

日時：2002年10月27日(日)

場所：自然保護研究所

プログラム

1) 環境保全に取り組むNPO/NGOのみなさんの展示

10:00 ~ 16:00 展示

12:00 ~ 13:50 交流発表会

発表団体：菅平の自然研究会 / 須坂水の会 / やまぼうし自然学校 / 上田自然探訪の会 / ガールスカウト日本連盟長野支部 / 戸隠森林植物園ボランティア / 東洋蝙蝠研究所 / 長野県植物研究会 / 信州ビオトープ研究会 / 飯綱高原に自然の花を咲かす会 / NPO法人 信州イワナの学校 / 森倶楽部21 / 自然保護研究所友の会 / 信州・地球温暖化対策研究会 & コペルニクス(受付順)

2) 手打ちうどん道場

11:30 ~ 13:00

3) 研究所のポスター展示

10:00 ~ 16:00

4) 研究所のプロジェクト研究発表

10:00 ~ 11:45

a) 野生動物の生態および人との共存に関する調査研究

b) 長野県の土地利用変化と自然環境との関連に関する研究

5) 特別企画シンポジウム「これからの浅川地域を考える」 14:00 ~ 16:00

a) 活動報告「浅川地域の今」

ゲスト：「子どもの森幼児教室」、「二十一世紀の生活を考える会」、「長野市環境管理

- 課」、「コペルニクス」の方々
b) ディスカッション「浅川地域のこれから」

2) 施設公開

県民の自然への理解を深め、学習交流の拠点としての自然保護研究所の機能の充実を図るために施設見学会を開催した。

今年度は、所内探検、飯綱高原の自然観察会、ポスターによる研究発表、自由研究のための昆虫・植物標本の作り方教室、自然保護研究所友の会によるネイチャークラフトをおこなった。2日間で70名の来所があった。

日時：2002年8月8日(木)～8月9日(金)

場所：自然保護研究所

プログラム

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1) 所内探検 | 11:15～12:00 |
| 調査道具の展示、各研究員の研究ポスター・写真展示 | |
| 2) 飯綱高原の自然観察会 | 10:00～11:00 |
| 3) パネルでの研究発表 | 9:00～17:00 |
| 「長野県の土地利用変化と自然環境との関連に関する研究」 | |
| 「逆谷地湿原の不思議」 | |
| 「ザゼンソウ属の開花・展葉のフェノロジー」他 | |
| 4) 自由研究のための昆虫・植物標本の作り方教室 | 13:00～15:00 |
| 5) ネイチャークラフト | 13:00～15:00 |
| ススキを使った昆虫作り | |
| 竹トンボづくり | |

3) 自然ふれあい講座

野外観察等を通じ、県民が自然への理解を総合的に深め、環境学習の場とすることを目的とし、自然ふれあい講座を開催した。

テーマ	日時	場所	講師	参加者
1 里山歩き 中信編その1 - 塩の道 (小谷村) -	2002/5/19 9:00 - 16:00	小谷村	富樫均ほか	18名
2 観察しよう「湿原の花と昆虫 - 飯綱高原大谷地」	2002/6/9 10:15 - 12:00	長野市 飯綱高原	大塚孝一・須賀丈	14名
3 森を歩こう - 飯綱高原その1	2002/6/16 5:00 - 8:30	長野市 飯綱高原	堀田昌伸	5名
4 調べてみよう「昆虫編」	2002/7/7 9:30 - 12:30	長野市 三才	前河正昭	41名
5 森を歩こう - 飯綱高原その2 (植物の観察編) -	2002/7/14 9:00 - 12:00	長野市 飯綱高原	尾関雅章	11名
6 ぼくらのまちの温暖化を探る	2002/8/1 10:00 - 14:00	松本市	浜田崇・陸斉	19名
7 里山歩き 東信編その1 - 飯盛山 (南牧村) -	2002/8/25 10:15 - 16:00	南牧村 飯盛山	須賀丈ほか	6名
8 長野市北西山麓の自然と暮らし	2002/9/7 9:30 - 12:00	長野市 浅川坂中	浦山佳恵	10名
9 里山歩き 中信編その2 - 天平の森と里山の今 (明科町長峰山) -	2002/10/20 9:00 - 16:00	明科町 長峰山	畑中健一郎ほか	20名
10 調べてみよう「カモシカは何を食べているのかな - 胃袋調べ -」	2002/11/10 13:00 - 16:00	長野市 自然保護研究所	岸元良輔	11名
11 森を歩こう - 飯綱高原その3 (スノーシューで散策) -	2003/2/9 9:00 - 11:45	長野市 飯綱高原	北野聡	36名

4) ニュースレターの発行

広く一般県民へ研究所の活動内容や自然保護に関する情報を提供する目的で、ニュースレターを4回発行した。

号数	発行日	部数	主な内容
21	2002/4/25	2,000	諏訪湖の魚族4、研究所の里山プロジェクト
22	2002/7/25	2,000	長野県の山岳地における自然保護問題
23	2002/10/15	2,000	研究員が案内する信州の里山ガイド
24	2003/2/1	2,000	地球温暖化防止特集

5) 敷地整備

研究所の敷地は面積が14.8haで、小規模な広葉樹林や湿地があり、多くは約45～50年生のカラマツ植林地である。林内には湧泉や小さな沢が多く、炭焼き窯の跡などもあって、開所以来簡単な観察路を設けて、観察会や各種学習会の場としてきた。

今年度は、5月下旬に研究所友の会の方たちのお手伝いを得て、観察路の整備補修を実施した。また、カラマツ植林地はほとんど管理がされず風倒木も多く、過密な状態であったので、森林整備事業を取り入れ、施設北側の2haほどの間伐をおこない、新たな観察路

を設けた。

今回の森林整備に合わせ、各種モニタリング調査を行う敷地プロジェクトが発足した。カラマツの間伐の影響等敷地整備に直接関連した事項として、鳥類の生息状況、野ネズミへの影響、昆虫群集への影響、森林植生の変化、林冠変化と林床の物理環境の変化等で、施設西側の一部のカラマツ植林地を対象区として今後、調査・研究を実施していく。他に敷地をフィールドとして実施していく事項として、敷地内の鳥類相、昆虫相、甲虫調査、植物相、気象観測、微地形と土壌層、敷地の山林利用の歴史等も実施していくこととなった。

6) 相談・支援

県内の自然保護の実践への支援をするために、講師等として職員を派遣している。当初は市民活動への支援を想定していたが、地域の博物館や小学校などの教育現場や、行政の取り組みへの支援など、各種の公益的な活動への支援が増えつつある。

また、相談対応も電子メールや電話などでの対応が増えてきた。相談への対応も支援の一部であり、両者を区別するのが困難な場合が増えてきたため、両者を区別せずに記録するようにしている。ただし、電子メール、電話、ファックス、来所での相談については、「場所」欄にそれがわかるように記してある。

No	月/日	依頼者	企画名	場所 (<>は相談・依頼・取材など)	市町村	テーマ	担当者
1	4/17	県環境自然保護課	逆谷地湿原のモニタリング調査の現地立会い	逆谷地湿原	長野市	湿原の環境保全に配慮したモニタリング調査のやり方	富樫
2	4/20	NPO 法人アフアの森基金	基金1周年記念リレートーク	県民文化会館	長野市	森と川の再生～長野に海がもどる日	前河
3	4/24	八方尾根開発株式会社	リーゼングラート五月連休の使用に係る査察	八方尾根	白馬村	リーゼングラート五月連休の使用に係る査察	富樫
4	4/8-5/月上旬	(株)小学館クリエイティブ	小学館週間「日本の天然記念物」ニホンカモシカの発刊のため	<相談: TEL/Mail>		ニホンカモシカの1日の行動	岸元
5	4/16-5/30	個人	本の出版原稿のチェックと修正	<依頼: 郵便物>		ハチ刺し症とハチの生態など	須賀
6	5/8	信濃毎日新聞記者	取材	<相談: TEL>		季節の早まりがチョウなどに及ぼす影響	須賀
7	5/11	東黒川公民館長	牟礼村東黒川公民館学習会	東黒川消防コミュニティセンター	牟礼村	飯綱火山と牟礼村の魅力	富樫
8	5/11, 18, 31, 6/8	上田女子短期大学(幼児教育科)	環境の指導法	上田女子短期大学	上田市	環境の指導法	陸
9	5/12	長野県勤労者山岳連盟	自然保護講演会	塩嶺グリーンスポーツハウス	岡谷市	高山山岳の生態系	尾関
10	5/13	(財)長野県廃棄物処理事業団4名	技術指導	自然保護研究所	長野市	廃棄物処分場の立地選定のシステム化	前河

No	月/日	依頼者	企画名	場所 (<>は相談・依頼・取材など)	市町村	テーマ	担当者
11	5/15	県環境自然保護課	助言	<相談: TEL>		京急カントリークラブの巣箱の掃除	堀田
12	5/21	長野県廃棄物処理事業団	助言	<相談: TEL/FAX>		長野県地質図(1/20万)	富樫
13	5/22	白馬村在住の個人	助言	<相談: FAX>		ナベクラザゼンソウとマルハナバチ	大塚・須賀・富樫
14	5/23	システム農学会 2002 春季大会事務局	シンポジウム: 山岳・里山・里地から見た流域	あがたの森文化会館	松本市	地形と流域システム	富樫
15	5/27	県環境自然保護課環境審査係	助言	自然保護研究所	長野市	県環境影響評価技術委員会の技術委員の候補者選び	富樫
16	5/29	牟礼東小学校	牟礼村東西研修会	村内	牟礼村	飯綱火山と牟礼村の自然	富樫
17	6/2	軽井沢サクラソウ会議	勉強会	中央公民館	軽井沢町	ノネズミの生態	岸元
18	6/3	個人(長野市松代中学校1年)	野外学習のための事前学習	<相談: TEL>		乗鞍岳の動物	陸
19	6/4	幼児教室大地父母の会	父母の会教養講座	自然保護研究所	長野市	飯綱高原の自然体験	大塚・陸
20	6/4	長野県松代高等学校	「郷土」の授業	松代	長野市	松代の泉水路をたどる	浜田
21	6/4	信州大学教育学部付属長野小学校5年3組	自然観察学習	自然保護研究所	長野市	「遊歩道」	陸
22	6/5	県自治研修所	新規採用初中級・上級課程(中期)研修	自治研修所	長野市	野外活動(自然観察)	陸
23	6/5	長野市民新聞記者	取材	<取材: TEL>		里山プロジェクト平成13年度の成果と今後の予定	富樫
24	6/5	長野市立古牧小学校	飯綱高原学校	自然保護研究所	長野市	飯綱高原のツキノワグマの話	浦山
25	6/6-7	京都工芸繊維大学	大学院生の調査補助	飯綱・戸隠地域	長野市・戸隠村・牟礼村	カタクリの種子散布	須賀
26	6/7	長野市民新聞記者	取材	自然保護研究所	長野市	里山プロジェクト浅川調査結果	富樫
27	6/8	野外教育クラブ	甲虫調査をしよう	飯綱高原ネイチャーセンター	長野市	虫捕りトラップの作り方・かけ方など	前河
28	6/10	若槻養護学校	学校の敷地の利用について	若槻養護学校	長野市	子どもたちが野外活動をおこなうために敷地をどう整備すればよいか	陸
29	6/11	長野県更級農業高等学校(環境科学科)	3年生『コース週間』敷地観察会	自然保護研究所	長野市	自然保護研究所・自然の観察	陸
30	6/12	県自治研修所	新規採用初中級・上級課程(中期)研修	自治研修所	長野市	野外活動(自然観察)	陸
31	6/13	信濃毎日新聞記者	取材	<相談: TEL>		今アカトンボがいるのはめずらしいか	須賀
32	6/14	NPO 法人アフンの森基金	13年度 NPO 法人アフンの森基金理事会アフンの森調査報告会	レストランうすけばー南青山店	東京都港区	アフンの森における平成13年度甲虫調査報告	前河
33	6/15	佐久市中佐都児童館	自然観察会	中佐都児童館～常田大池	佐久市	甲虫の採集方法	前河
34	6/19	県自治研修所	新規採用初中級・上級課程(中期)研修	自治研修所	長野市	野外活動(自然観察)	陸

No	月/日	依頼者	企画名	場所 (<>は相談・依頼・取材など)	市町村	テーマ	担当者
35	6/19	梅池自然園ボランティア	梅池自然園ボランティア研究会	梅池自然園	小谷村	梅池の地質・地形それによる植物とのかかわり	富樫
36	6/19-	JEC アース調査隊	むし虫ランド(里山昆虫ビオトープ)づくり	芋井	長野市	昆虫ビオトープづくりのための整備の方法の指導	前河
37	6/23	野外教育クラブ	甲虫調査をしよう	飯綱高原ネイチャーセンター	長野市	虫捕りトラップの作り方・甲虫の探し方など	前河
38	6/23	飯綱西区副区長	里山にすむ昆虫の話	飯綱高原ネイチャーセンター	長野市	里山にすむ昆虫の話	前河
39	6/24	長野市川中島北原区環境美化推進会	環境美化推進会研修会	自然保護研究所	長野市	環境美化に対する意識高揚	陸
40	6/25	信州ビオトープの会	会誌「いぶき」原稿の執筆	<依頼: 執筆>		ヒートアイランド現象と緩和策	浜田
41	6/27	長野都市経営研究所	信越トレッキング委員会&開田山脈歩くルート設置推進連絡会合同会議	岡山なべくら高原「森の家」飯山市		平成14年度の活動計画	浜田
42	6/27	塩尻市環境保全課	塩尻市版 RDB のための情報提供	<相談: TEL>		県版 RDB 動物編の検討対象(目・科)の範囲	須賀
43	7/1	豊かな環境づくり北信地域会議	豊かな環境づくり北信地域会議	北信地方事務所	中野市	北信における戦後の住民の土地利用変化と自然観 - 長野市芋井地区を事例に	浦山
44	7/1	大阪狭山市の大学生	相談対応(NACRI 箱)	<相談: はがき>		植物に関係した仕事にはどんな勉強をすれば良いか	大塚
45	7/2,2/25	県若槻養護学校	学校評議員会	若槻養護学校	長野市	意見交換会(設置要綱第5条2)	陸
46	7/5	須坂市立相森中学校	総合的な学習の時間	自然保護研究所	長野市	野生生物の保護・在来種・外来種など	岸元・堀田
47	7/7	信濃毎日新聞記者	取材	昭和の森公園	長野市	自然ふれあい講座	前河
48	7/9	信州大学教育学部付属長野中学校	総合的な学習の時間	自然保護研究所	長野市	絶滅しそうな動物その他	岸元
49	7/12	長野市地域開発公団	逆谷地湿原に関する問い合わせ	<依頼: 資料提供>		逆谷地湿原に関する解説資料の提供	富樫
50	7/13	長野市古里公民館	公民館事業「浅川探検」	自然保護研究所	長野市	飯綱高原の自然	陸
51	7/13	新建新聞社	新建新聞社の会「環境と建設」	自然保護研究所	長野市	自然環境と建設のあり方	前河
52	7/15	丸子町消費者の会	丸子町消費者行政視察研修	自然保護研究所	長野市	生物の多様性	須賀
53	7/16	長谷村在住の個人	相談対応(NACRI 箱)	<相談: Mail>		自然保護団体設立にむけて	陸
54	7/19	長野市立後町長学校	飯綱高原学校	自然保護研究所	長野市	研究所と飯綱高原・自然保護	北野
55	7/23	信越トレッキング委員会	信越トレッキング委員会第2回会議	ホテル国際 21	長野市	報告と今後の活動計画	浜田
56	7/24	坂城町住民環境課	相談対応	<相談: TEL>		ヤスデの生態など	須賀
57	7/25	「環境の世紀」をめざして・まつもと発 21	講習会「ヒートアイランド現象の観測方法を学ぶ」	城東公民館・市街地とその周辺	松本市	ヒートアイランド現象の観測方法の講義と実習	浜田
58	7/26	どんぐりの会	昆虫の採集方法と移動能力の調査方法の研修	子供の森幼児教室園庭	長野市	昆虫の採集方法と移動能力の調査方法の研修	前河
59	7/29	八方尾根開発株式会社	飯縄山の表記に関する問い合わせ	<相談: TEL>		飯縄山の表記	富樫

No	月/日	依頼者	企画名	場所 (<>は相談・依頼・取材など)	市町村	テーマ	担当者
60	7/30	信州大学教育学部付属長野小学校	飯綱高原学校	自然保護研究所	長野市	飯綱高原の自然と自然保護	畑中
61	7/30	長野市環境パートナーシップ会議エネルギー調査部会	ヒートアイランド対策についての公開勉強会	ふれあい福祉センター	長野市	ヒートアイランド現象の実態と対策	浜田
62	8/1	政策秘書室	NBS「情報広場ながの」の取材	中央公民館	松本市	「ふれあい講座」(ヒートアイランドの観測)の取材	浜田
63	8/2	牟礼村在住の児童	夏休みの自由研究	自然保護研究所	長野市	気温の測定の方法	浜田
64	8/5	理科専科会(長野市の理科教育員の会)	第2回理科専科会(現地実習)	自然保護研究所	長野市	山野草の名称や特性・生態	尾関
65	8/5	北俣入沢砂防連絡協議会	平成14年度第1回北俣入沢(ネブカ平)崩壊対策検討委員会	崩壊地現場・村役場	白馬村	平成14年度第1回北俣入沢(ネブカ平)崩壊対策検討委員会	富樫・尾関
66	8/5	長野市立篠ノ井東小学校5年	飯綱高原学校	自然保護研究所	長野市	研究所と飯綱高原・自然保護	堀田
67	8/7	アクテック	SBC「エコロジー最前線」の取材	吉の調査地	長野市	里山の昆虫調査の取材	前河
68	8/10	県美ヶ原自然保護センター	森に生きるコウモリーほら・住み家は樹の中	県美ヶ原自然保護センター	武石村	樹洞営巣性鳥類の巣穴をめぐる競争	堀田
69	8/28	須坂市在住の個人	相談対応	<依頼: 同定>		ミズスマシの同定	須賀
70	8/29	神奈川県在住の個人	相談対応(NACRI 箱)	<相談: Mail>		ミヤマシロチョウの分布と保護対策	須賀
71	8/29	希少野生植物研究会	希少植物学習会	自然保護研究所	長野市	長野県 RDB の概要	大塚
72	8/29	神奈川県在住の個人	相談対応(NACRI 箱)	<相談: Mail>		植林や地球温暖化対策など	浜田
73	8/30	東京の学校の生徒	相談対応(NACRI 箱)	<相談: FAX>		東部町の鳥と昆虫	須賀
74	8/30	日本経済新聞社大阪支局	取材	自然保護研究所	長野市	野生動物(特にニホンザル)による農業被害問題	陸
75	9/5	須坂市立相森中学校	総合的な学習の時間	自然保護研究所	長野市	野生生物の保護・環境問題	岸元・大塚・堀田・北野・浜田
76	9/11	上田市上田自然探訪の会	気温測定	市内4ヶ所	上田市	気温の測定の方法	浜田
77	9/13	東京都在住の個人	相談対応	<相談: Mail>		ムササビ	岸元
78	9/19	長野都市経営研究所	平成14年度第3回信越トレッキング委員会会議	なべくら高原・森の家	飯山市	平成14年度の活動	浜田
79	9/20	特定非営利活動法人長野県NPOセンター	公共職業訓練「NPO マネジメント科」	長野県NPOセンター内	長野市	NPO 概論/長野県内のNPO事情	陸
80	9/21	塩尻市教育委員会・しおじり学びの道探検隊・にじの橋21	猪土手を学ぶ集い	長野県林業総合センター内	塩尻市	長野県の猪垣	浦山
81	9/23	県動物愛護センター	動物愛護フェスティバル2002インながの	ビッグハット	長野市	野生生物の保護・在来種・外来種など	北野・前河
82	9/26	戸隠村立柵小学校	相談対応	村立柵小学校	戸隠村	総合的な学習の時間での学校ビオトープづくり	陸

No	月/日	依頼者	企画名	場所 (<>は相談・依頼・取材など)	市町村	テーマ	担当者
83	9/27	国立台湾師範大学の大学院生	相談対応	<相談: Mail>		ニホンカモシカの論文と研究者	岸元
84	10/1	長水教育研究会	長水教育研究会	裾花中学校	長野市	第21分科会「環境問題と教育」コメントータ	陸
85	10/2	下高井教育研究会会長・推進委員長	平成14年度下高井教育研究会	市立南宮中学校	中野市	環境教育に関する分科会での助言	陸
86	10/3	特定非営利活動法人長野県NPOセンター	公共職業訓練「NPOマネジメント科」	長野県NPOセンター内	長野市	分野別NPO/環境保全	陸
87	10/5-6	長野県自然観察指導員連絡会	NACS-J自然観察指導員講習会長野下見合宿	信州高遠少年自然の家	高遠町	自然観察指導員研修会の持ち方	富樫
88	10/6	いいやまブナの森倶楽部	地球温暖化防止シンポジウム	なべくら高原・森の家	飯山市	地球温暖化問題とは...長野モデルの活動	浜田
89	10/7	長野のライオンズクラブの方と週間長野新聞社	相談対応	<相談: TEL>		逆谷地湿原	富樫
90	10/9	信州大学工学部4回生(2名)	卒業論文の相談	自然保護研究所	長野市	河川の気候緩和調査と「風の道」の研究の方法	浜田
91	10/11	にっぽんこどものじゃんぐる	にっぽんこどものじゃんぐる学習会	峰の高原	須坂市	ヒートアイランド現象	浜田
92	10/12,11/1,12/6,1/2,6,2/15	NPOフォーラム in 信州実行委員会	NPOフォーラム in 信州実行委員会	信州大学経済学部・長野県NPOセンター	松本市・長野市	NPOフォーラム in 信州の企画運営	陸
93	10/15	戸隠小学校4年	理科見学	自然保護研究所	長野市	飯縄高原の自然と自然保護	陸
94	10/18	長野県自然観察指導員連絡会	(財)日本自然保護協会(NACS-J)自然観察指導員講習会長長野	信州高遠少年自然の家	高遠町	地域の自然を知る/地形・地質	富樫
95	10/23	県総合教育センター	教員研修「森にしたしむ」	林業総合センター	塩尻市	森におけるフィールド調査	尾関
96	10/23	中野市立中野小学校環境教育係	相談対応	<相談: Mail>		動物の頭骨の同定	岸元
97	10/25	財団法人日本測量調査技術協会	第7技術部門幹事会長長野大会見学会	自然保護研究所	長野市	自然保護研究でのGIS利用	前河・畑中
98	10/26	社団法人日本青年奉仕協会	第5回全国ボランティア学習研究フォーラム長野大会	長野県勤労者福祉センター	長野市	分科会のコーディネーター	陸
99	10/26	信州の地質シンポジウム世話人会事務局	第10回信州の地質シンポジウム	長野県労働会館	長野市	浅川地域の地形地質と人の暮らしとの関連	富樫
100	10/29	松本市西部公民館	平成14年度西部公民館「後期講座」	西部公民館	松本市	健康と生命と心を育む講座「私達の体は自然からの贈りもの」	岸元
101	10/30	県自治研修所	中堅主事技師課程第1部	自治研修所	長野市	四次元感覚による地域理解-飯縄山と浅川地域-	富樫
102	11/7	中野市立高丘小学校	総合的な学習の時間	市立高丘小学校	中野市	ミツバチの話	須賀
103	11/9	NPO法人信州イワナの学校	第1回河川環境講演会～いわな・やまめの未来を考える～	旧第一中学校体育館	上田市	イワナの今を見る	北野

No	月/日	依頼者	企画名	場所 (<>は相談・依頼・取材など)	市町村	テーマ	担当者
104	11/18	信州大学教育学部附属長野小学校	学級の中核活動における校外活動	自然保護研究所	長野市	トチノキを育てる	大塚
105	11/19	県企画局企画課	治水・利水流域対策検討に係る学習会	県庁	長野市	流域対策学習会	富樫・浜田・大塚・松田
106	11/26	牟礼村教育委員会	牟礼村文化財調査委員会勉強会	むれ歴史ふれあい館	牟礼村	袖之山「舟石」の地学的な見方	富樫
107	11/27	財)長野県廃棄物処理事業団	技術指導	自然保護研究所	長野市	地形データの有効利用	前河
108	11/29,12/2,0,1/15,2/12	NPO 法人やまぼうし自然学校	「地域の環境教育」NPO と行政の協働研究会	県庁	長野市	地域の環境教育 NPO と行政の協働研究会	陸
109	11/30-12/1	日本オオタカネットワーク	第11回オオタカ保護シンポジウム	総合体育館	堀金村	県版 RDB 作成事業について-希少種・特に猛禽類の情報収集・管理・公開に関する課題-	堀田
110	12/7	NHK 長野放送局	下諏訪町に出没するサルについて	NHK 長野放送局	長野市	下諏訪町に出没するサルが人を襲うこと	陸
111	12/8	信越放送ニュースウィークリー	下諏訪町に出没するサルについて	信越放送	長野市	下諏訪町に出没するサルが人を襲うこと	陸
112	12/10	東京都在住の個人	シダ植物標本の同定	自然保護研究所	長野市	シダ植物標本の同定	大塚
113	12/13	長野県長野南警察署生活安全課	鑑定依頼	長野南警察署	長野市	密猟と思われるカモシカが発見されたことによる種の鑑定	岸元
114	12/21-23	日本鳥学会企画委員会	鳥の学校その1: まずはセンサスから - データの取り方から解析まで		長野市・戸隠村		堀田
115	12/23	大阪体育大学大学院生	資料の問い合わせ	<相談: Mail>		長野オリンピックの研究報告についての問い合わせ	富樫
116	1/6	福井県自然保護センター	鑑定依頼	<相談: 郵送>		カモシカの角により年齢判定してほしい	岸元
117	1/9	信州大学3年生	進学	<相談: 電子Mail>		自然保護レンジャーになるためには・どのよ	陸
118	1/20	長野県地方事務所林務課	信濃毎日新聞社「イノシシ次々襲う」	<相談: TEL/FAX>		なぜイノシシが人を襲ったのか	浦山
119	1/21	東京工業大学	相談対応	<相談: Mail>		有蹄類の社会構造に関する論文	岸元
120	1/23	橋井村役場吉井さん	相談対応	<相談: TEL>		鳥が家の外壁に穴をあけること	堀田
121	1/27	千葉県在住市民	相談対応	<相談: TEL>		コウモリの防除方法	岸元
122	1/28	環境省第6回自然環境保全基礎調査植生調査委員会	環境省第6回自然環境保全基礎調査植生調査委員会	長野県勤労者福祉センター	長野市	自然環境保全基礎調査中部ブロック調査会議	前河・尾関
123	2/1	(社)長野県環境保全協会	地球温暖化防止のための中学校教材作成委員会	長野県環境保全協会会議室	長野市	第1回会合: 趣旨・経過説明と全体的な内容の検討	浜田
124	2/2	県美ヶ原自然保護センターボランティアの会	美ヶ原自然保護センター冬季自然講座	入山辺三城牧場から県民の森周辺	松本市	三城牧場県民の森でのフィールドワーク	岸元

No	月/日	依頼者	企画名	場所 (<>は相談・依頼・取材など)	市町村	テーマ	担当者
125	2/4	トリノ大学契約教授	相談対応	<相談: Mail>		長野冬季オリンピックの研究プロジェクト 成果	富樫
126	2/6	下伊那農業改良普及センター (阿南支所)	相談対応	<相談: TEL>		気温の測定方法	浜田崇
127	2/7	長野県生涯学習推進センター	体験活動ボランティア活動研修会	県生涯学習推進センター	塩尻市	自主的なボランティア活動はいかにして可能か	陸
128	2/10	高森町教育委員会	ザゼンソウ自生地の保護について	自生地	高森町	間伐に伴う保護への留意点	大塚
129	2/13	飯田市美術博物館	飯田市美術博物館自然講座	美術博物館	飯田市	県版 RDB 作成事業における鳥類の調査状況と課題	堀田
130	2/15	長野県地方事務所林務課	派遣依頼	デイサービスセンター・養護老人ホーム香風園	上山田町	落鳥したヒレンジャクの現場検証	堀田
131	2/17	長野市在住の個人	相談対応	<相談: TEL>		上高地のケショウヤナギ	陸
132	2/17	茅野市在住の個人	相談対応	<相談: Mail>		蓼科高原に生息するニホンリスとのつきあい方	岸元
133	2/18	牟礼村立牟礼東小学校	総合学習における環境教育支援	牟礼東小学校	牟礼村	わたしたちの村再発見	富樫
134	2/18	長野県 NPO センター	NPO バンクの設立準備会	長野県 NPO センター	長野市	NPO バンクの設立準備会 - NPO 夢バンク(仮称)構想	陸
135	2/18	県林務部森林保全課		自然保護研究所	長野市	ヒレンジャクが集団で窓ガラスに衝突して死亡することがあるか	堀田
136	2/19	上伊那事務所長	自然保護研修会	伊那合同庁舎	伊那市	希少植物の保護	尾関
137	2/23	県美ヶ原自然保護センター ボランティアの会	美ヶ原自然保護センター冬季自然講座	あがたの森公民館/本郷公民館	松本市	美ヶ原の動物	岸元
138	2/20	朝日新聞社	集落周辺に出没するイノシシ	自然保護研究所	長野市	最近北信で集落周辺に出没するイノシシ	浦山
139	2/26	長野県地方事務所	長野県野生鳥獣保護管理対策協議会設立講演会	長野県地方事務所	長野市	野生動物の生態と保護管理	岸元
140	2/28	戸隠村柵小学校 6 年生	国語の授業の調べもの	<相談: FAX>		世界の自然保護	陸
141	2/28, 3/21	(株)第一測量設計コンサル タント	相談対応	自然保護研究所	長野市	環境省哺乳類分布調査	岸元
142	3/1	県生活環境部環境自然保護課	こどもエコクラブ県内交流会	自然保護研究所	長野市	活動のふり返りと新しい計画づくり	陸・北野・ 畑中・丸山
143	3/2	やまぼうし自然学校/県生活環境部生活文化課	シンポジウム 2003 - 子ども・地域・自然 -	町立真田中学校	真田町	地域の環境を生かした実践活動をめざして	陸
144	3/7	長野市今井財産区管理会	長野市今井財産区管理会	自然保護研究所	長野市	里山の特性と環境保全	富樫
145	3/7	長野都市経営研究所	信越トレッキング委員会・関田山脈歩くルート設置推進連絡会合同会議	ホテルタングラム斑尾	信濃町	H14 年度の活動報告と今後の組織のあり方	浜田
146	3/8	長野県 NPO センター/ 県生活環境部生活文化課	NPO フォーラム in 信州	信州大学経済学部	松本市	市民社会へのデザイン - NPO・行政・企業の協働でつくる未来 -	陸

No	月/日	依頼者	企画名	場所 (<>は相談・依頼・取材など)	市町村	テーマ	担当者
147	3/8	(社)長野県環境保全協会	地球温暖化防止のための中学校教材作成委員会	長野県環境保全協会会議室	長野市	第2回会合:教材の内容・テーマおよび執筆者についての検討	浜田
148	3/10	国土交通省中部地方整備局 天竜川上流工事事務所/(株) 建設技術研究所	相談対応	自然保護研究所	長野市	平成13年度小沢ダム自然環境調査業務委託報告書(案)についてのアドバイス	岸元
149	3/11	松本市在住の市民	相談対応	<相談: TEL>		動物の保護活動をおこなっている市民団体を知りたい	岸元
150	3/13	放送利用中南信グループ連絡会	放送利用中南信グループ連絡会平成14年度総会	NHK松本支局	松本市	生態系からみた環境保全	岸元
151	3/13	長野県教育委員会文化財・生涯学習課	相談対応	<相談: TEL>		天然記念物の候補であるヤイロチョウ	堀田
152	3/17	アフアンの森財団	アフアンの森調査会議	アフアンの森財団事務所	信濃町	アフアンの森財団調査会議	前河
153	3/22	駒ヶ根市の個人	相談対応	<相談: Mail>		県版RDBにおけるカヤネズミ	岸元
154	3/25	大町山岳博物館千葉悟志さん	高山の空中写真のデータ処理	自然保護研究所	長野市	高山の空中写真の幾何補正	前河
155	3/25	県企画局長	愛知万博「中部広域交流館」出展事業検討会	県庁	長野市	「中部広域交流館」(仮称)の概要・展示内容の検討	陸・堀田・須賀・浦山
156	3/25	県林務部森林保全課	特定鳥獣保護管理検討委員会クマ部会	県庁	長野市	クマ保護管理計画検討会	岸元
157	3/26	中日新聞社	相談対応	<相談: TEL>		県版レッドリスト	須賀・北野・岸元

7) 研究ボランティア

研究テーマごとにボランティアの協力が必要な場合、研究ボランティアの募集をおこない、今年度は計74名の研究ボランティアの登録があった。自然ふれあい講座「調べてみよう編」の2つの調査体験コース「雑木林のクワガタ・カブトの動き方」、「カモシカは何を食べているのかな? / 胃袋調べ」を通じてのボランティア登録はそのうちの計7名であった。

2002年度新規登録分の研究ボランティアの内訳

主な作業内容	人数
甲虫調査	72名
動物の食性分析	1名
動物の骨格標本作製	1名
	計74名

研究業績

1) 学会発表等

- Fukui, K., T. Koizumi, Y., Iijima, S., Fukuyo, I., Miyahara, M., Ozeki & T. Hamada (2002) Vegetation destruction and soil erosion in alpine zone of Mt. Kisokoma, the Central Japanese Alps. The VIII International Congress of Ecology (INTECOL), Aug. 2002, Seoul, Korea.
- 浜田 崇 (2002) ゴルフコース造成による林縁付近の微気象の変化. 日本地理学会2002年度春季学術大会, 3月, 日本大学.
- 濱 俊幸・中村浩志・堀田昌伸・篠原喜運・宮川信夫・信州猛禽類調査グループ (2002) サシバの行動圏と生息環境. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学教育学部.
- 浜田 崇 (2002) 地球温暖化問題における地方自治体研究機関の役割とは?. 第5回自然系調査研究機関連絡会議, 12月, 研究成果活用プラザ北海道.
- 浜田 崇・尾関雅章・須賀 丈・岸元良輔 (2002) ギフチョウは明るい林床に産卵するか?. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学教育学部.
- 浜田 崇・尾関雅章・富樫 均 (2003) 八方尾根スキー場における残雪分布とそれに影響を及ぼす要因. 日本地理学会2003年度春季学術大会, 3月, 東京大学.
- 畑中健一郎・富樫 均 (2002) 里山環境保全のための地域特性把握 地形・地質による地域区分と人口・土地利用. システム農学会2002年度秋季シンポジウム・研究発表会, 11月, 京都.
- 堀田昌伸 (2002) 長野県版レッドデータブック作成事業について - 希少種、特に猛禽類の情報収集・管理・公開に関する課題 -. 第11回オオタカ保護シンポジウム, 12月, 堀金村.
- 堀田昌伸・中村浩志・濱 俊幸 (2002) 長野県北部におけるサシバの生息密度と生息環境について. 日本鳥学会2002年度大会, 9月, 日本大学歯学部.
- 堀田昌伸・中村浩志・濱 俊幸 (2002) 長野県北部におけるサシバの生息状況について (in 自由集会「里山に住む猛禽類の生態と保全第2回: サシバの生態と環境利用」). 日本鳥学会2002年度大会, 9月, 日本大学歯学部.
- 堀田昌伸 (2002) 長野県北部におけるサシバの生息環境について. 第5回自然系調査研究機関連絡会議, 12月, 研究成果活用プラザ北海道.
- 堀田昌伸 (2002) サシバの採食生態. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学教育学部.
- 堀田昌伸・中村浩志・濱 俊幸 (2002) 長野県北部におけるサシバの生息密度と生息環境. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学教育学部.
- 堀田昌伸・篠原喜運・宮川信夫・中村浩志・濱 俊幸・信州猛禽類調査グループ (2002) 発信器を装着したハチクマ雌の育雛期における行動圏. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学教育学部.
- Iijima, Y., Fukuyo, S., I. Miyahara, K., Fukui, M., Ozeki, T., Hamada, K., Kimura, K., Mizuno & Matsumoto, J. (2002) Long-term environmental manipulation on alpine plants in Mt. Kisokomagatake, central Japan. The VIII International Congress of Ecology (INTECOL), Aug. 2002, Seoul, Korea.
- 榊原保志・岩井志織・浜田 崇・中川清隆 (2002) 野外観測と人工気象実験室による地表面物質の熱的パラメータの測定. 日本地理学会2002年度秋季学術大会, 10月, 金沢大学.
- 岸元良輔 (2002) カモシカに関する長野県と静岡県との取り組み, 日本哺乳類学会2002年度大会 緊急シンポジウム「鳥獣保護法の改正とその問題点」, 10月, 富山大学

- Kitano, S. & Uehara, T. (2002) Nest superimposition by exotic brook, brown trout and hybrids on native charrs in a Japanese stream. The VIII International Congress of Ecology (INTECOL), Aug. 2002, Seoul, Korea.
- 北野 聡・上原武則・小林 尚 (2002) 長野県の絶滅のおそれのある淡水魚類. 日本魚類学会年会, 10月, 松本.
- 北野 聡 (2003) 河川環境によって異なる外国産マス類の侵入状況, 第50回日本生態学会, 2003年3月, つくば市.
- 陸 斉 (2002) 環境教育の縦系と横系をどうつむぐか -野生動物問題解決に向けた実践の事例から-. 日本環境教育学会第13回大会(仙台). 宮城教育大学.
- 大森慎也・中村浩志・堀田昌伸・篠原喜運・宮川信夫・信州猛禽類調査グループ (2002) ビデオ解析によるハチクマの育雛行動と給餌内容. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学教育学部.
- 大塚孝一 (2002) 長野県北部の鍋倉山で発見されたナベクラザゼンソウ. 信州生態研究会, 12月, 信州大学.
- 大塚孝一・北野 聡 (2003) 野ネズミによるザゼンソウ属の花序及び果実の捕食. 第50回日本生態学会, 2003年3月, つくば市.
- Maekawa, M. (2002) A simulation of GIS based decision-making model for the Environmental Impact Assessment in a Golf course planning, Karuizawa, Japan. The VIII International Congress of Ecology (INTECOL), Aug. 2002, Seoul, Korea.
- Maekawa, M. (2002) Collaborative research works among NGO, NPO and landscape ecology researcher and strategy for nature conservation in Nagano, central Japan. The VIII International Congress of Ecology (INTECOL), Aug. 2002, Seoul, Korea.
- Miyawaki, A. (2002) Ecological restoration and creation of living environments-Principles and applications. The VIII International Congress of Ecology (INTECOL), Aug. 2002, Seoul, Korea.
- 前河正昭・岸元良輔 (2002) ツキノワグマの行動圏と生息環境. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学教育学部.
- 前河正昭・加藤久幸・天野雄一郎・梶原美恵子・竹内大介・池田雅子 (2003) 市民参加型調査と景観スケールの生態ネットワーク評価 -里山の甲虫類の再捕獲調査を手始めとして-. 第50回日本生態学会, 2003年3月, つくば市.
- 三浦麻加・中村浩志・堀田昌伸 (2002) サシバの育雛行動と給餌内容の巣間比較. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学教育学部.
- 尾関雅章 (2002) 乗鞍岳車道際のハイマツ林は後退をまぬがれるか. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学.
- 尾関雅章・土田勝義 (2003) 乗鞍岳における車道際ハイマツの年枝成長とハイマツ林縁植生の変化. 第50回日本生態学会大会, 2003年3月, つくば市.
- Suka, T. (2002) Diversity and conservation of bees in Japan. XIV International Congress of IUSSI, 8月, 北海道大学.
- Suka, T. (2002) Vertical distribution of bee assemblages in central Japan. The VIII International Congress of Ecology (INTECOL), Aug. 2002, Seoul, Korea.
- 須賀 丈・田中洋之 (2003) ボルネオに生息するミツバチにみられる遺伝的分化. 日本熱帯生態学会ワークショップ「これからの熱帯林遺伝子研究をどうおこなうか」, 3月, 松山市.
- 須賀 丈・田中洋之・渡辺邦夫・Kahono, S.・Roubik, D. W. (2003) スラウェシに生息するミツバチ3種の遺伝的分化とその保全. 第50回日本生態学会大会, 2003年3月, つくば市.
- 滝沢和彦・堀田昌伸・前河正昭・細野哲夫 (2002) 非繁殖期における積雪量と関連したフクロウの標高移動. 信州生態研究会平成14年度研究発表会, 12月, 信州大学.

- 富樫 均 (2002) 地形と流域システム．システム農学会 2002 年度春季シンポジウム「山岳・里山・里地から見た流域 - 山と流域システムの共生と望ましい秩序形成を求めて -」, 5 月, 松本市あがたの森文化会館．
- 富樫 均 (2002) 浅川流域の地形地質と人の暮らしとの関連．第 10 回信州の地質シンポジウム, 10 月, 長野県労働会館．
- 富樫 均 (2003) これからの自然保護に地学を生かそう．地学団体研究会長野支部年始学習会「創造活動の到達点と問題点」, 1 月, 長野県勤労者福祉センター．
- Tsuchida, K. & Ozeki, M. (2002) Disturbance and restoration of alpine vegetation in Japanese Alps. The VIII International Congress of Ecology (INTECOL), Aug. 2002, Seoul, Korea.
- 浦山佳恵 (2003) 昭和初期の長野県浅川村の暮らしと里山との関わり．日本地理学会 2002 年度春季学術大会, 3 月, 東京大学．

2) 掲載論文等

- 阿部裕紀子・藤原陸夫 (2003) 長野県木曾川中流域のフロラ．秋田県立博物館研究報告 28: 23-46.
- 糸賀 黎 (2002) 地方自治体における地域環境政策の展開．農村計画学会誌 21(3): 205-209.
- 北野 聡・河合吉岡・井田秀行 (2003) 雑魚川源流域におけるニジマスとイワナの生態的特徴．信州大学教育学部附属自然教育研究施設研究業績．40: 9-13.
- 北野 聡・山形哲也・市川寛・小林 尚 (2003) 長野県北部の水田用水路に生息する淡水魚類：耕作放棄 1 年後の状況．信州大学教育学部附属自然教育研究施設研究業績．40: 29-32.
- 陸 斉 (2002) 「現代の動物園論」序説～動物園が環境教育施設になるためには～．動物園・水族館と環境教育 2: 26-30.
- 宮脇昭 (2002) 斜面に森をよみがえらせる．緑と生態 9: 6-7.
- 宮脇昭 (2003) 21 世紀の鎮守の森の創造．緑と生態 10: 16-17.
- 富樫 均 (2002) 地形と流域システム．システム農学(J. J A S S) 18(2): 81-89.
- 浦山佳恵 (2002) 長野盆地北西部の丘陵地 - 野生動物からみた地域の変化 - , 『教授退官記念論文集 山・雪・地形』(小林詢先生退官記念論文集『山・雪・地形』刊行委員会編).

3) その他

- 藤原陸夫 (2002) 里見先生と私．植物地理・分類研究 50: 134-135.
- 藤原陸夫・松田義徳・阿部裕紀子 (2002) 秋田県植物目録 第 10 版．150 pp, 秋田植生研究会．
- 浜田 崇 (2002) ヒートアイランド現象とその緩和策について．いぶき 5: 1-4.
- 浜田 崇 (2002) 気候．『長野県版レッドデータブック 維管束植物編』, p.5. 長野県．
- 浜田 崇 (2002) 私の気象環境学習活動 - 地表面の改変から大気の問題を考える視点 - . 環境学習 2002 年版大気 (CD-ROM 版), 環境情報科学センター．
- 堀田昌伸 (2002) 鳥たちの冬支度 鳥の貯食行動-. 『ポピュラーサイエンス 243: 動物たちの気になる行動 (1) 食う・住む・生きる編 -』, pp. 128-139, 文一総合出版．
- 糸賀 黎 (2002) 里山の保全再生を考える．信州自治 55(4): 48-51.
- 糸賀 黎 (2003) 富山南西部地域開発整備に関する提言 五箇山合掌文化回廊づくり. (社)奥地開発道路協会 3-106.

- 岸元良輔 (2002) コペルニクスが目 第91回 ツキノワグマとの共存 (上). 週刊長野, 2002年8月11日.
- 岸元良輔 (2002) コペルニクスが目 第91回 ツキノワグマとの共存 (下). 週刊長野, 2002年8月18日.
- 北野 聡 (2002) コペルニクスが目 第89回 生態系のつながり (上) - 森とイワナ -. 週刊長野, 2002年7月28日.
- 北野 聡 (2002) コペルニクスが目 第90回 生態系のつながり (下) - 信州のサケ -. 週刊長野, 2002年8月4日.
- 北野 聡 (訳) (2002) 採餌様式の変化による柔軟なニッチ分割 (in 中野繁論文集「川と森の生態学」), pp. 77-100, 北海道大学出版会.
- 陸 斉 (2003) 環境教育は環境運動の一部. いぶき Vol.6: 1-4.
- 前河正昭 (2002) 甦れ昆虫少年 !! よみがえれむしとり家族 !! 昆虫採集データを里山研究に生かすためのシステム作り. 日本昆虫協会長野支部会報 10: 26-27.
- 宮脇昭 (2003) 故郷の木による、故郷の森づくりは生きた環境教育. 『21世紀の環境とエネルギーを考える』, pp. 31-63, 時事通信社.
- Miyawaki, A. & Abe, S. (2002) A reforestation project of lowland forest in Brazilian Amazon-Growth behavior in ten years. Abstract of 45th Symposium of IAVS; 3-8 March 2002, Porto Alegre Brazil, P. 114.
- 宮脇昭・阿部聖哉 (2003) 生態系と人間. 『遺伝子組換え植物の光と影』 (佐野浩編), pp. 3-22, 学会出版センター.
- 尾関雅章 (2002) 「コペルニクスが目 第76回 レッドデータブック (下)」. 週刊長野 2002年5月11日.
- 須賀 丈 (2002) 「コペルニクスが目 第75回 レッドデータブック (上)」. 週刊長野 2002年4月20日.
- 富樫 均 (分担執筆) (2002) 宮沢賢治文語詩の森 第3集 (宮沢賢治研究会編), pp. 224-231, 柏書房.
- 富樫 均 (2002) 「名勝・舟石」. 長野市民新聞「長野の大地見どころ 100選 51」, 2002年4月20日.
- 富樫 均 (2002) 「湖沼・逆谷地湿原」. 長野市民新聞「長野の大地見どころ 100選 55」, 2002年5月18日.
- 富樫 均 (2002) 「湖沼・大座法師池」. 長野市民新聞「長野の大地見どころ 100選 56」, 2002年5月25日.
- 富樫 均 (2003) 「ガイド・長野県自然保護研究所」. 長野市民新聞「長野の大地見どころ 100選 86」, 2003年1月25日.
- 富樫 均 (2003) 「温泉とわき水・飯綱鉦泉」. 長野市民新聞「長野の大地見どころ 100選 92」, 2003年3月8日.
- 浦山佳恵 (2002) 書評『イノシシと人間 - 共に生きる - 』(高橋春成編). 地理学評論 75(9): 592-594.
- 浦山佳恵 (2002) 自然条件をたくみに生かした農業 - 長野市西部山地. 『長野県の自然と暮らし』 (信州地理研究会編), pp. 60-65.

施設とその概要

1) 施設概要

所在地：〒381-0075 長野県長野市北郷2054-120 / TEL 026-239-1031 FAX 026-239-2929

標高：海拔 1030 m

構造：SRC・RC造2階建て（研究所）, S造（ブリッジ）, RC造（車庫）

敷地面積：14.8 ha 延床面積：3,120 m²

2) 設備概要

主要設備

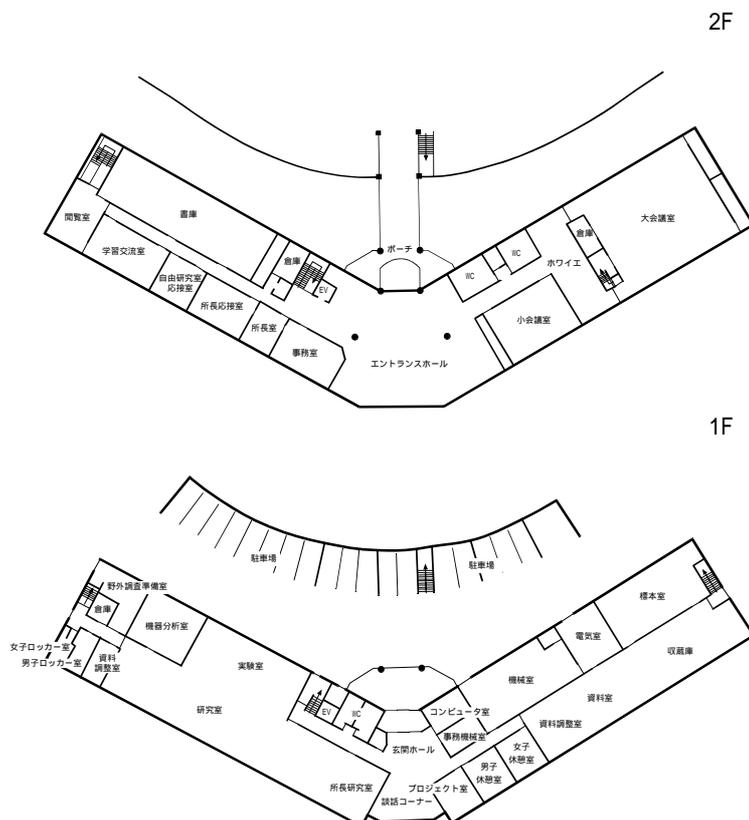
空調温水設備（固体蓄熱式電気温水発生機 / 全熱交換機 / 床暖房・融雪機器 / パネルヒーター / 深夜電気温水器 / 除湿器）

通信設備（電話回線×4回線 / ISDN回線）

身障者用設備（車椅子対応エレベータ / 点字ブロック）

非常用設備（難燃性壁材 / スプリンクラー消火設備 / 蓄電池式非常照明 / 自家発電設備）

3) 施設平面図



4) 標本室

本研究所ハーバリウム(NAC)は2001年に国際登録された。

標本庫の面積は約115 m²で、庫内の温度や湿度を一定の範囲に保つため空気調節装置と除湿機が備えられている。

維管束植物標本収蔵用のキャビネット数は100個である。スチール製、手動による可動式で、4個ずつ25列に配列されている。キャビネット1個の高さは約2 m、幅は約1 m、内部は3列、12段に仕切られている。したがって、キャビネット1個の内枠数は36個である。1個の枠に、さく葉標本を50～60シート収納するとして、全体で約20万点の収納が可能である。

維管束植物標本は藤原陸夫収集の標本を土台としており、現時点で141,311点が登録済みである。標本産地は全国的であり、いくつかの国外産の標本が含まれている。また、数十点の正基準標本や同基準標本などが収められている。標本点数がとくに多いグループとして、オシダ科、メシダ科、バラ科、キク科、イネ科、カヤツリグサ科がある。現在、全体の約95%が整理済みであるが、完了すれば約4,500種の所蔵が予想される。

ミズゴケ属植物標本収蔵用のキャビネット数は9個である。上記のものより小型のスチール製、約2万点の収納が可能である。

ミズゴケ属植物標本は松田行雄採集の標本である。現時点で、16,450点、42種2亜種が登録済みである。標本産地は維管束植物と同様に全国的であり、いくつかの国外産の標本が含まれている。

施設の利用状況

施設利用・視察等一覧

No.	月 日	団 体 名	人数
1	4/10	自然保護センター交流会	13
2	4/18	環境自然保護課	20
3	5/9	友の会運営委員会	8
4	5/29	牟礼村教育委員会	50
5	5/31	理科専科会	7
6	6/4	NPO大地父母の会	13
7	6/4	信州大学付属長野小学校	41
8	6/5	長野市立古牧小学校	121
9	6/11	更級農業高等学校	20
10	6/15	コープ長野	30
11	6/16	自然ふれあい講座	5
12	6/24	北原区環境美化推進会	20
13	7/3	長野市立篠ノ井西小学校	121
14	7/5	須坂市立相森中学校	3
15	7/9	信州大学付属長野中学校	8
16	7/13	長野市古里公民館	45
17	7/13	新建新聞社の会	100
18	7/14	自然ふれあい講座	11
20	7/15	丸子町消費者の会	35
19	7/17	CWニコルアフターの森財団	20
21	7/19	長野市立後町小学校	36
22	7/30	信州大学付属長野小学校	130
23	8/5	長野市立篠ノ井東小学校	69
24	8/5	市中教科会(理科部会)	90
25	8/8	施設公開	36
26	8/9	施設公開	29
27	8/29	希少野生動物研究会	6
28	8/30	長野市立大豆島小学校	143
29	8/31	信州大学教育学部榊原研究室	6
30	9/5	須坂市立相森中学校	16
31	9/10	豊科町消費者の会	40
32	10/5	長野中央ライオンズクラブ	120
33	10/15	戸隠村立戸隠小学校	25
34	10/25	(財)日本測量調査技術協会	20
35	10/27	エコフィエスタ	91
36	11/7	福島県	1
37	11/10	自然ふれあい講座	11
38	11/18	信州大学付属長野小学校	40
39	2/9	自然ふれあい講座	36
40	3/1	こどもエコクラブ	111
41	3/7	長野市今井財産区管理会	8
		その他一般来所者	50
		合計	1,805

予算概要

2002年度予算概要

(単位 千円)

項目	管理運営費	調査研究費	図書費	計
報酬	24,132			24,132
共済費	1,509			1,509
報償費		2,234		2,234
旅費	1,749	2,923		4,672
交際費	60			60
需用費	14,545	4,847	2,750	22,142
役務費	1,465	1,126		2,591
委託料	9,430	7,390		16,820
使用料	1,308	6,392		7,700
備品購入費		1,669	270	1,939
負担金	7			7
公課金	18			18
計	54,223	26,581	3,020	83,824

主要研究備品

2002年度購入した研究備品は以下の5品目である

品名	型式	数量
土壌水分計	Campbell社 ハンディTDR	1
チェストフリーザー	SCR-F301N	1
動物保護器	日本アルミ THF-1356	4
風向風速計	Young社 CYG-3002	1
OHP	エルモ HP-2850SOLAR	1

図 書

2002 年度末における図書整備状況は概ね次の通りである

1) 書籍

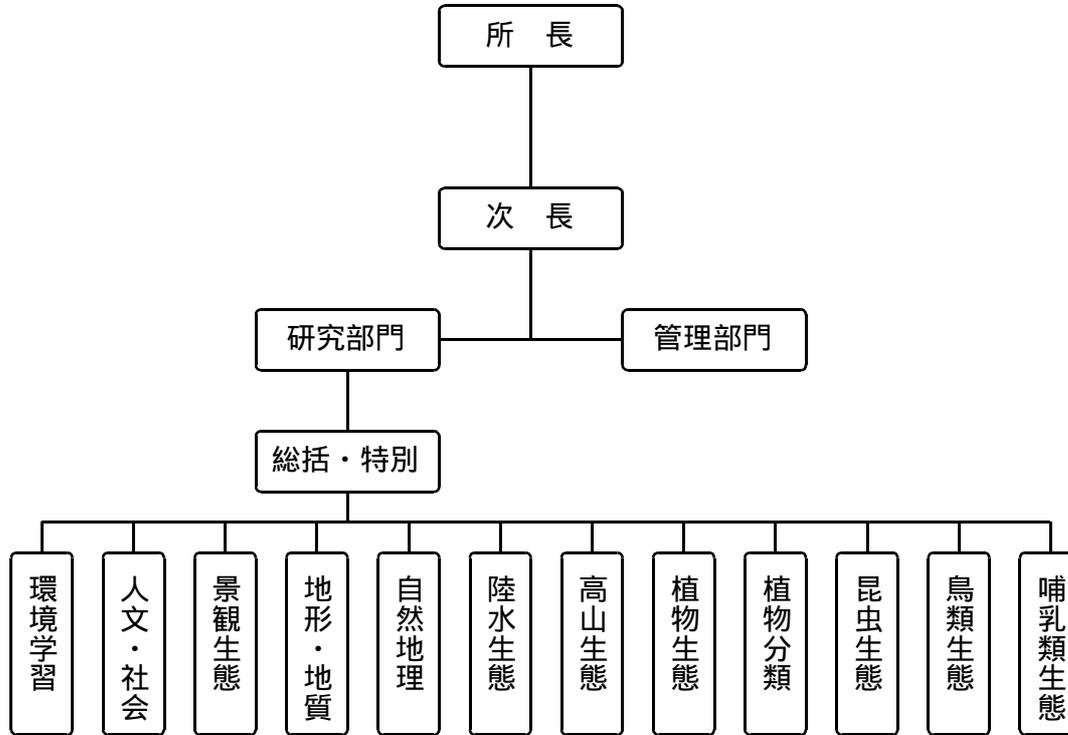
分類	2002年度購入分		累積点数 (2003年3月31日現在)
	和書	洋書	
一般書籍	205	13	3458
ビデオ・CD-ROM	14	0	111
行政資料	6	0	83

2) 定期購読雑誌

和文誌タイトル	英文誌タイトル
地学雑誌	Acta Phytotaxonomica et Geobotanica
どうぶつと動物園	Arctic and Alpine Research
エコ・ソフィア	Auk
月刊地球	Bee World
技術と人間	Biodiversity and Conservation
GIS: 理論と応用	Conservation Biology
保全生態学研究	Copeia
遺伝	Current Contents(Agri., Biol. & Env. Sci. FTP)
ジュリスト	Ecological Monographs
科学	Ecology
環境情報科学	Evolution
環境社会学研究	Journal of Animal Ecology
環境と公害	Journal of Applied Metrology
火山	Journal of Ecology
昆虫と自然	Journal of Forest Research
教育	Journal of Forestry
ランドスケープ研究	Journal of Mammalogy
民族学研究	Journal of Plant Research
水情報	Journal of Vegetation Science
ナショナル・ジオグラフィック	Journal of Wildlife Management
NEW ENTOMOLOGIST	Wildlife Monographs: Supplement of J. Wildlife Management
日本リモートセンシング学会誌	Land Use Policy
日本林学会誌	Landscape Ecology
日本植物分類学会誌	Ornithological Science
日本鳥類学会誌	Plant Species Biology
日経バイト	
日経パソコン	
日経サイエンス	
農村計画学会誌	
生物科学	
森林科学	
植物地理・分類研究	
植物研究雑誌	
水利科学	
ワールド・ウォッチ	
WWF	

組織および職員名簿

組織



職員名簿

(2003/3/31 現在)

所長	宮脇 昭	主任研究員	大塚孝一
		主任研究員	岸元良輔
次長	原 修二	研究員	富樫 均
		研究員	陸 斉
管理部門		研究員	堀田昌伸
主 幹	小林久美子	研究員	須賀 丈
主 事	丸山 聡	研究員	北野 聡
		技 師	浜田 崇
研究部門		技 師	前河正昭
総括研究員	糸賀 黎	技 師	畑中健一郎
特別研究員	松田松二	技 師	尾関雅章
特別研究員	藤原陸夫	技 師	浦山佳恵

長野県自然保護研究所年報

第7号 (2002年度)

2003年3月31日 発行

長野県自然保護研究所

〒381-0075 長野市北郷2054-120

電話 (026) 239-1031

FAX (026) 239-2929

Nagano Nature Conservation Research Institute
Kitago 2054-120, Nagano 381-0075, Japan

印刷 長野県自然保護研究所

長野市北郷 2054-120

電話 (026) 239-1031